信州大学教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第29号】
発行人　土　屋　聖　史
事務局　長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部内
TEL・FAX (026)238-4370

同窓会創立三十周年に向けて

同窓会長　土屋聖史

「信州大学八学部の中で、最も古い伝統を継承する教育学部のみ同窓会が存在しないことは不思議である。…人はだれでも心にふるさとを求める。とりわけ、青春を燃焼し尽くした母校に寄せる想いは熱い。…学部の開学から四十年。卒業生も一万二千名を超えて、早くも現役を去ろうとする者もいる時期に達している。この機を逸して同窓会設立の機会はない。…」

同窓会報第一号（昭和六十二年八月十一日発行）に掲載された「同窓会設立に熱き思いを」と題された巻頭言での同窓会発起人会長である松橋英幸氏の言葉であります。

この呼びかけに呼応して、二千五百名をはるかに超える全国各地の会員より、同窓生の熱い想いが込められた激励の便りと共に会費が集まりました。そして、昭和六十三年八月十一日には信濃教育会講堂にて第一回通常総会が開催されて、松橋英幸氏を初代会長に迎えて「信州大学教育学部同窓会」が誕生したのであります。

その時より二十八年を経過した現在、本同窓会では会費納入者への「同窓会報」の発行、会費未納者への納入依頼を行う「組織充実」、学生や卒業生への「研究助成」、教育学部及び大学院の充実に向けた「学部後援」、そして、八月には記念講演を含めた通常総会の開催等の事業を行っております。また、ここ数年は法人化の問題や新設された信州大学校友会への参加の問題等を乗り越え、現在、会費納入者数は一万一千四百余名を数えるようになりました。

平成二十九年には、同窓会創立三十周年を迎えます。三十年という節目を迎えるに当たり、我々には冒頭でご紹介申し上げた松橋英幸氏の言葉に代表される先輩方の熱い思いやこれまでの歩みをしっかりと受け止め、今後へ継承していく役目と共に、今後の同窓会のあり方について、先を見通した十分な検討を加えていく役目があるのではないでしょうか。今回、リニューアルしたホームページを活用して、会員皆様への情報発信に力を入れます。創立三十周年をどう迎えたらよいのか、今後の同窓会はどうあったらよいのか等、会員皆様のご意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願い致します。

東校舎の改修工事完了

平成24年度の北校舎（N館）と講義棟の耐震改修工事に続き、平成25年度は、東校舎の耐震改修工事が実施されました。外観を淡い紫色を基調に一新すると共に、設備面でも多くの改修をし、より使い易く機能的な校舎としてリニューアルされました。

改修のポイントは次の通りです。

○講義室の利便性向上

講義室E514の椅子を座りやすいタイプにすると共に、コンセントも設置し、研究会や学会等での利便性を向上させました。また、講義室の視聴覚設備を従来のブラウン管テレビとVHSビデオの組み合わせから、プロジェクタ、スピーカー、DVDプレーヤーに全室更新し、授業や諸活動でのICT活用に対応させました。

○研究環境の利便性向上

特別支援関係の観察室、プレイルームの更新はじめ、各研究室、実験室等の空調等、研究環境を向上させました。

○東門ブロック塀改修とゴミ置き場移転

東校舎改修工事に併せ、東門から続くブロック塀をフェンスに改修しました。これによって美観と安全性の両面が向上し、昨年度の地震でも倒壊の被害を免れました。また、東門横に設置していたゴミ置き場を駐車場側に新設すると共に、旧ゴミ置き場を自転車置き場に改装・転用し、美観と学生らの利便性の両面を向上させました。

今回の改修で、ここ3年ほど続いていた一連の校舎の耐震改修工事は一段落いたしました。同窓会の皆様、改修を終えた東校舎並びに各校舎に是非足をお運びください。

（文責）東校舎耐震改修検討委員長　村松浩幸

第二十七回　同窓会通常総会報告

平成二十六年度の同窓会通常総会は、八月十一日(月)、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、二十八名の出席を得て開催された。

村澤修吾幹事の進行のもと、古幡民子副会長の開会宣言、土屋聖史会長の開会挨拶の後、議長団に、丸山強、原英正、議事録署名人に、塩原義郎、清水豊喜の各氏を選任、書記に望月弘、茅野公穂の各氏を任命して議事へと移り、次の三議案について審議された。

○第一号議案

平成二十五年度事業報告書、歳入・歳出決算及び財産目録の承認について

総会資料に基づき、中村直人事務局長より平成二十五年度事業について、岩田靖幹事より平成二十五年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がされた。また、三沢弘幸監事より適正に処理されているとの会計監査の結果が報告され、全員一致でこれを承認した。なお、学部現役生への支援、研究助成に関する意見が出された。

会長挨拶　土屋　聖史会長

学部後援費の贈呈

○第二号議案

平成二十六年度事業計画書（案）及び歳入・歳出予算（案）の承認について

総会資料に基づき、中村直人事務局長より平成二十六年度事業計画（案）について、岩田靖幹事より平成二十六年度歳入・歳出予算（案）についての説明があり、全員一致でこれを承認した。なお、退職された校長先生からの会長選出についての検討、一般社団法人化の検討、新聞紙上での広報など総会の通知方法の検討に関する意見が出された。

〔平成二十六年度事業大綱〕

一、同窓会報〔第二十八号〕発行、会員、特別会員への郵送

二、研究助成　教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助、学生課外活動への補助

三、学部後援　学部・大学院充実に向けての援助、就職活動への支援

四、組織充実　支部組織の強化、地区代表を通して卒業生の会費未納者への納入依頼、退職校長未納者への納入依頼、新任校長・教頭未納者への納入依頼、在学生未納者への納入依頼

五、長期構想「信州大学同窓会連合会」への協力、総会のあり方・基本財産の運用、同窓会の設立経過と節目について

○第三号議案

第十四期役員の辞任及び交代について

土屋聖史会長より矢嶋直徳先生の顧問の辞任について報告があった。また、土屋会長より、配布資料によって、更埴 市川正之、須坂上高井 寺島寿一、塩筑 塩原義郎、庶務幹事 望月弘、事務局長 中村直人の各氏への役員の交代について紹介があり、さらに新事務局長 中村直人氏からの自己紹介があり、全員一致でこれを承認した。

議事終了後、臨席の田中敏氏（教育学部副学部長）より祝辞をいただいた。古幡民子副会長の閉会宣言で総会を終了した。

講演　田中　敏 様

平成25年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自　平成25年4月　1日
至　平成26年3月31日

歳入合計額　6,016,780円也
歳出合計額　4,933,529円也
差引残額　1,083,251円也　翌年度へ繰越

〈歳入の部〉

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1前年度繰越金	1,076,143	1,076,143	0	
2会費	5,720,000	4,940,000	△ 780,000	247名入金
3雑収入	10,000	637	△ 9,446	利子
歳入合計	6,806,143	6,016,780	△ 789,446	

〈歳出の部〉

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1会議費	580,000	407,820	△ 172,180	総会・役員会等
2事業費	1,300,000	1,103,939	△ 196,061	会報・学部後援等
3事務費	1,740,000	1,596,190	△ 143,810	会報発送・印刷等
4事務委託費	1,586,000	1,586,000	0	雇用費等
5雑費	150,000	149,580	△ 420	連合会会費・謝恩会御祝儀等
6予備費	1,450,143	90,000	△ 1,360,143	オリンピックパラリンピック功労金
歳出合計	6,806,143	4,933,529	△ 1,872,614	

ご挨拶

教育学部長　平野　吉直

昨年の秋、国立大学改革の一環として、文部科学省主導のもとで「ミッションの再定義」という取組みが公表されました。「ミッションの再定義」とは、「国立大学が現在果たしている役割とともに、将来ビジョンに立って、特色や強みを伸ばし、社会的機能を今後どのように果たしていくかの方向性を明確にすること」とされ、すべての国立大学のすべての学部が対象となっています。

信州大学のような地方にある総合大学の教育学部は、地域密接型を目指す学部として位置づけられ、教員就職率の向上など具体的な数値目標が明記されるとともに、新たな教職大学院の設置に加え、今後の少子化と教員需要の減少を想定して、新課程の廃止・学校教員養成課程の入学定員の見直しなどの改革が求められました。

現在進めています教育学部・教育学研究科の改組は、この「ミッションの再定義」に記された方向性をもとに、平成二十八年度を目途に、現在文部科学省との折衝等を重ねているところです。本年の八月には、最終的な結論が出る予定のため、次の機会にその詳細について報告をさせていただきますが、新たに設置する教職大学院の概要を少し紹介させていただきます。

大学院における教員養成・現職教員の再教育機能に関して、ミッションの再定義では、「長野県教育委員会等との連携・協働により、教職大学院を設置することによって、学部段階での資質能力を有した者の中から、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成を行うとともに、現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得るスクールリーダーを養成する。」と記されています。これまでの学部卒学生を主な対象とした大学院を再編し、現職教員の再教育を主眼に置いた教職大学院を設置する予定です。公立学校の現職教員に加え、長野県教育委員会と附属学校との交流人事を活用し、附属学校教員を対象とする教職大学院を設置します。公立学校や附属学校に勤務する教員が、各学校に在職中に教職大学院で学ぶ機会を設け、指導的理論とすぐれた実践力・応用力を備えた人材の育成を図ることを企図しています。長野県教育委員会のご協力をいただきながら、教育学部と附属学校園が教職大学院を基点にして強力なタッグを組み、信州教育に貢献できる優れた教員の養成・研修に取り組み、教育学部・附属学校園の存在意義を高めていくつもりです。

同窓会員の皆様には、日頃から信州大学教育学部の運営と学生の勉学に対して、教員採用に向けての模擬試験の実施など、多大なご協力をいただいております。教育学部教職員を代表して、心から感謝申し上げます。これからの学部・大学院改革へのご理解をお願いするとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成二十六年度～平成二十七年度新転任教員】

間島秀徳　先生（美術教育）
青木　一　先生（教育科学）
茅野理恵　先生（教育科学）
森下　孟　先生（教育科学）
水谷瑞希　先生（志賀施設）

【平成二十六年度転退職教員】

中山裕一郎　先生（音楽教育）
平成十三年四月一日着任、定年退職
村上千恵子　先生（教育科学）
平成十八年四月一日着任、定年退職

平成28年度学部・大学院改組

学部・大学院組織検討委員会　永松　裕希

信州大学教育学部では、平成24年度に学部の改革を行い、その年の入学生から新たな教育組織とカリキュラムのもとでの教育がスタートしました。そのときの入学生たちも、今はもう4年生となり、間近に迫った教員採用試験の準備や卒業研究に取り組んでいるところです。

時の流れの速さには改めて驚かされますが、社会状況の変化は私たちの想像をさらに超えた速さで進んでおります。グローバル化や情報化、少子高齢化などの社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっており、学校教育において求められる人材育成像の変化への対応も一段と求められる状況となっています。学校教育において児童生徒に21世紀を生き抜くための力を身につけさせるには、基礎的・基本的な知識・技能の修得に加えて、思考力・判断力・表現力等を育成することが強く求められています。すなわち、従来の知識・技能の修得に重きを置いた学校教育から、知識・技能を活用する学習活動、課題探究型の学習、協働的な学び等が重要視されており、同時にこの新しい学びを創出できる実践的指導力を有する教員が必要とされている状況です。

加えて今日の学校教育では、いじめ・不登校といった生徒指導上の諸課題への対応、英語教育、道徳教育、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、新たな学びに対応するＩＴＣの活用といった複雑かつ多様な課題に対応することが必要となっています。

このような社会状況の変化に応え、より高い専門性と実践力を有する教員の養成を目的に、教育学部では24年度の学部改革に続き、28年度に学部と大学院の総合的な改革を行うことを予定しています。新たな教育学部及び大学院教育学研究科の教育を具体的にご紹介いたしますと、今回の改革では次のような点が新しくなります。

○教育学部（表1参照）

・生涯スポーツ課程で培ってきた人材養成力を活かして新たに「野外教育コース」を設置し、登山・キャンプ、スキー・スケートなどの野外活動を指導できる教員を養成します。

・特別支援学校教員養成課程は、学校教育教員養成課程と統合し、「特別支援学校教育コース」としてリニューアルします。

・教育カウンセリング課程で培ってきたノウハウを活かして新たに「心理支援教育コース」を設置し、いじめ、不登校、発達障害などへの対応ができる教員を養成します。

○大学院教育学研究科（表2参照）

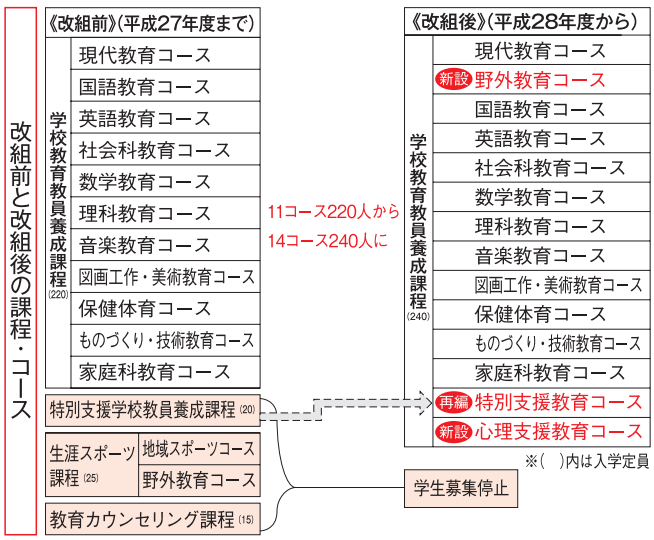
・専門職学位課程である教職大学院（「高度教育実践専攻」）を新設し、これまでの修士課程と専門職学位課程の2つの課程を持つ研究科になります。

・これまでの修士課程は学校教育専攻の1専攻に統合し、そこに学校教育専修、臨床心理学専修、教科教育専修の3専修を設置します。

・教職大学院は、教育現場の複雑で多様な課題に対応できる教育実践における高度専門職の養成を目的として、実践的指導力を高めるための学校現場をフィールドとした授業科目と、近隣の公立学校・教育学部附属学校に教育研究の場を設け、学校教員が訪問して協働で問題解決を図る「学校拠点方式」を特徴としています。

・この教職大学院では、実践的指導力・展開力を備え、新しい学校作りの有力な一員となり得る教員の養成を目指す「教職基盤形成コース」と、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠である確かな指導倫理と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの養成を目指す「高度教職開発コース」の2コースを設置する予定です。

（表１）教育学部の改組前と改組後の課程・コース



（表２）大学院教育学研究科の改組前と改組後の専攻・コース等

改組前(平成27年度まで)

専攻名	専修名	入学定員
学校教育専攻	学校教育専修	8
	臨床心理学専修	
教科教育専攻	国語教育専修	32
	社会科教育専修	
	数学教育専修	
	理科教育専修	
	音楽教育専修	
	美術教育専修	
	保健体育専修	
	技術教育専修	
	家政教育専修	
	英語教育専修	
合　計		40

再編

改組後(平成28年度から)

専攻名	専修名	入学定員
学校教育専攻(修士課程)	学校教育専修	20
	臨床心理学専修	
	教科教育専修	

新設

専攻名	コース名	入学定員
高度教職実践専攻(教職大学院)	教職基盤形成コース	20
	高度教職開発コース	
合　計		40

人間の力

同窓生　山本　健一

私の好きなスポーツの一つ、トレイルランニング。山道を走る遊びです。トレイルランニング競技は短いレースは10㎞、長いレースは330㎞、様々なカテゴリーがあります。その中でも私が最も好きなものが160㎞前後の、いわゆる100マイルレースと言われるものです。私はこの競技で2009年より9回、世界大会に参戦してきました。2008年に日本山岳耐久レース（72㎞）を優勝してから、更なる楽しみは、と考えたとき、世界大会に目を向けました。県立高校教員なので、当然うまくいくか全くわかりませんでしたが、とりあえずやってみようと、チャンス到来に備えて、「楽しみ」に向かって練習をしていきました。2008年の冬、当時世界最高峰と言われていた、ヨーロッパアルプスモンブランを一周する100マイルレース、「ウルトラトレイル・デュ・モンブラン」にエントリーしました。大会は2009年8月の終わりです。5月頃、職場で出場の許可が出ました。チャンス到来です。さらに練習に熱が入り、練習の他にもいろいろなことをしました。私にとって大きな転機は、信大体育科時代からお世話になっていたお酒を一切やめたことです。たくさんの楽しい想い出を作ってきましたが、今度は別の形で楽しさを追求することにしました。そこではスッキリやめることができ、現在お酒のない生活は7年間が終わろうとしています。7月下旬には御嶽山麓で開催された100㎞のレースに出場しました。このレースは0時スタート。いきなり深夜です。ヘッドランプを点けて進みますが、3時頃眠くなりました。かなりきつかったですが、なんだか大人の夜遊び的な感覚になり、朝9時半にゴールできました。

いよいよ8月中旬、私はフランスの山岳リゾートのシャモニという街に向け日本を発ちました。コースを一部下見したり、街を観光したり、本当に楽しい時間を過ごすことができました。私の体は充実感に満ちあふれて、早く走りたい、というわくわく感でいっぱいでした。レース当日、シャモニのスタート会場は2000名以上のランナーで溢れかえり、身動きを取るのが大変でしたが、なんとかスタートラインに立つことができました。大きく息を吸って集中力とリラックスがちょうどいい具合に混ざり合い18:30、169㎞の旅に出発しました。私は楽しくて仕方ありませんで、海外のランナーとお互いのことを話したり、また景色を楽しんだり、夜中の星を見たり、無心で何も考えずに走ったり、濃密な時間を過ごしました。このときに今もとても仲の良い2人のフランス人と知り合うことができました。そしてスタートしてから24時間、私はシャモニの教会に戻ってきました。多くの声援の中、8位でゴールです。今までに味わったことない幸せな感覚に包まれ、数分後に涙があふれてきました。さらに数分後自分の力では立っていることができずに、仲間に支えられながら会場を後にしました。

この経験は、人間の潜在能力は計り知れないということを私に教えてくれた出来事でした。これからも未知なる世界、未知なる自分を探していきます。

13年目の挑戦

同窓生　大坪　梓

2015年4月4日、「信州大学女子サッカー部の監督として長年にわたる指導と強化によりチームが優秀な成績を収め信州大学の名誉を高めた功績と尽力」により、同窓会連合会から表彰していただきました。これまで出会ったすべての選手、スタッフ、サポーターの皆さんに良い刺激を与えてもらい、サッカーというスポーツを楽しませてもらったことと、2015年1月に5年ぶり8回目のインカレ（全日本大学女子サッカー選手権）に出場できたことがこの表彰に繋がったと思います。本当に感謝しています。

昨年度から女子サッカー部は、高校生や卒業生と一緒にサッカーを楽しめる環境を構築し、現役選手と一緒に試合へ出場できるようになりました。高校生や卒業生にとってのメリットはもちろん、現役の選手にとっても高校生に指導する機会や卒業生に就職相談をする機会などが生まれ、社会に出る前の成長する場としてチームが変わりました。インカレ出場も、その良い影響があったからだと思います。

そして13年目の今年度、挑戦していることがあります。それは選手の人としての「成長」に向けたチーム作りです。これまでは、サッカーを通して成長してくれたらと漠然と思うことはありましたが、今は意図的に仕掛けていきたいと強く思うようになりました。そのため、信州大学女子サッカー部に所属していたからこんな自分に成長できた、社会に出て役に立った、と選手が思えるチーム作りに向けて挑戦をしています。例えば、「話す力（コミュニケーション能力）」の向上です。大学在学中や社会へ出たら、自分から話すこと、コミュニケーションをとることが重要になってきます。それも、できる限りロジカルに話すことが相手に伝える上で必要になります。そこで、トレーニング前に「3分間スピーチ」を始めました。現在は「自分が成長したいと思う部分」というテーマで、自分が成長を望む部分とその理由について、選手達がスピーチをします。聞き役には質問する機会を設けています。また、仲間のプレーについてアドバイスする時間を作り、「話す」機会を積極的に作っています。加えて、サッカーにおいても人生においても必要と思われる、課題解決能力、精神力といったものも成長させられるチーム作りにチャレンジしていきたいと考えています。試行錯誤していますが、こうした取り組みの中で、選手達が変わろうとしている姿が見え、指導者として僕自身もさらに成長する必要があると思うようになりました。

チームコンセプトである、「楽しい個性豊かなプレーを生かした全員サッカー」を目指しながら、「共育者」として僕自身成長していきたいと思いますので、卒業生の皆様も応援よろしくお願いいたします。

同窓会情報

教育学部同窓会・研究補助事業について

本号でも、平成十五年度より実施しております同窓会研究補助事業についてお知らせいたします。

本事業の主旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にし、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくこと、に置かれています。対象者は教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者一律に一万円を補助しています。

応募希望者は所定の様式（「研究補助願及び研究概要」）にしたがって、同窓会事務局（〒380―8544　長野市西長野6―ロ）にお申し込み下さい。当該年度の十一月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせ下さい（研究補助は十名までとなっており、受付可能かどうかの確認のためです）。

平成二十六年度助成交付の研究テーマ

①柳澤　裕（長野市立若穂中学校）
数学的見方・考え方を伸ばす

②若松　洋幸（長野市立若穂中学校）
自分の心の中を素直に見つめ表出することができる表現題材の開発（美術科）

③海沼　元（長野市立加茂小学校）
社会事象に対する見方や考え方を深める学習はどうあったらよいか
～地域素材「往生地リンゴ」の教材化を通して～

④原　英正（軽井沢町立軽井沢中部小学校）
復興と命の俳句

⑤青木　秀一（長野市立保科小学校）
つながりを意識した授業づくり

⑥原田　良介（長野市立綿内小学校）
小学校高学年における教科担任制の実施

⑦望月　弘（信州大学教育学部附属特別支援学校）
附属研究の日常的な公開を目指して

⑧小島　豪（千曲市立更級小学校）
小学校中学年の「ゴール型ゲーム」の入口となる教材づくりとその実践的検証
～「ダブルゴール・サッカー」を通して～

⑨瀬下　裕介（長野市立更北中学校）
生活に必要な基礎的な知識と技術を身につけ、生活を工夫し創造する力を育てる指導のあり方

⑩村澤　修吾（長野市立湯谷小学校）
子どもの「問い」を中心にすえた授業のあり方

以上が、平成二十六年度における補助金交付者及び研究テーマに関する一覧です。これらを大いに参考にしていただき、積極的に応募していただきますよう、よろしくお願いいたします。

研究実践より

自分の心の中を素直に見つめ表出することができる表現題材の開発

若松　洋幸

小さな頃、家にある廃材を使って、作ったり落書きをするのが大好きだった。多分あの頃の経験が私の美術教師としての原点になっているのだと思う。そんな表現活動を授業の中でできないか？

授業の中で、「何を作っていいのか分かりません」という生徒が少なからずいる。安易な表現で終わらせる生徒もいる。先を見て、「できる、できない」ではない。「やってみたらこうなった」、でいいので何かしら取り組んでみてほしいのだ。世の中本当にできないことなど少なくて、やってみたら意外にできてしまったということは殊の外多いものだ。美術の表現も同じ。表現活動を通して経験値を高めてほしい。そう思って、中学校3学年で「私の心の世界」という題材に取り組むようになった。どうしたら「表現」という壁を乗り越えてくれるのだろうかと思いながら授業を進めている。

テーマはその時の心の中を覗きこんでみて決める。画用紙と向き合って描くのではなく、シナベニヤに布や段ボールを貼り付けて、自分のイメージに合わせた背景作りから始める。テーマに合わせてモチーフを決め、素材や表現方法もそれに合わせて作ったり描いたりしていく。どうせやるなら思いついたことをどんどん取り入れ、プラスし付け加えて楽しく追求していく。

写真の作品は、昨年度の一押し作品。大好きなアイドルのライブをイメージして、洗濯された舞台衣装や会場で売られていたポップコーンを作っています。軽量粘土で作ったポップコーンがおいしそうで…。最初、水玉模様の背景には驚きましたが、作品が完成すると、「なるほど」と納得したのでした。

卒業・修了生の就職状況

就職部長　三野　たまき

本学部の就職支援活動に対して、教育学部同窓会より多大なご支援を賜っておりますことを、心より感謝申し上げます。

さて、平成二十六年度の教育学部卒業生及び大学院教育学研究科修了生の進路状況がまとまりましたので、下欄の表のとおりご報告申し上げます。教員就職率は昨年度比で約二・二％上昇し、ここ十年間においては歴代三位であった点が明るい話題としてご紹介できます。また平成二十八年度公立学校教員採用募集案内によりますと、大学院修士課程在学者・進学者に対する採用猶予が長野県教育委員会から発表されました。これは大学院在学中に受験校種の専修免許を取得することを条件として、大学院修士課程（博士前期課程及び教職大学院を含む）に在学している者は一年間、来年度進学が決定している者は二年間、採用を猶予するものです。この制度を利用して更なる高度な専門性を身につけ、多様性、協同性を兼ね備えた教員を、日本一多く学校現場に送り出したいと考えております。

今後も皆様から忌憚のないご意見・ご要望を頂戴し、就職支援を充実させたいと考えておりますので、ご協力をお願い申しあげます。

平成26年度卒業生・修了生　進路状況

学部（学習分野）・大学院別		就職・進学別	県内 小学校	県内 中学校	県内 高等学校	県内 特別支援学校	県内 幼稚園	県内 その他	県内 小計	県外 小学校	県外 中学校	県外 高等学校	県外 特別支援学校	県外 幼稚園	県外 その他	県外 小計	計	教員外 公務員 一般	教員外 公務員 心理	教員外 会社員	教員外 病院	教員外 スポーツ施設	教員外 福祉施設	教員外 その他	教員外 小計	進学者 大学院 本学教育研究科	進学者 大学院 他大学	進学者 研究聴講履修生	進学者 専門学校	進学者 その他	進学者 小計	現職教員	家事	臨採待ち	未定	合計	備考
学部	教員養成課程 学校教育教員養成課程	臨床学校教育学 男	1 (1)	1 (1)					2 (2)							0 ( )	2 (2)			1				1		2				2					5	
		臨床学校教育学 女				1			1 ( )	1						1 ( )	2 ( )						1	1				1		1					4	
		総合・生活科教育 男							0 ( )	1 (1)						1 (1)	1 (1)								1	1				2			1	1	5	
		総合・生活科教育 女	2						2 ( )							0 ( )	2 ( )			1			1	2											4	
		国語教育 男		3 (2)					3 (2)		1					1 ( )	4 (2)			1				1											5	
		国語教育 女	7	2			1 (1)		10 (1)		1					1 ( )	11 (1)			5	1			6											17	
		社会科教育 男	3 (1)	5 (2)					8 (3)	1 (1)	1 (1)					2 (2)	10 (5)	2					1	3											13	
		社会科教育 女	3	3 (2)		1 (1)			7 (3)	3 (3)						3 (3)	10 (6)			1				1	1					1					12	
		数学教育 男		11 (6)	2				13 (6)	4	1 (1)					5 (1)	18 (7)								1		2			3				1	22	
		数学教育 女							0 ( )							0 ( )	0 ( )									2				2					2	
		理科教育 男	3 (1)	1					4 (1)	1	4 (2)					5 (2)	9 (3)								1	1				2				1	12	
		理科教育 女	1	5 (4)					6 (4)	2	1					3 ( )	9 (4)	1						1		1				1		1			12	
		音楽教育 男	1 (1)						1 (1)							0 ( )	1 (1)								1		1		1	3					4	
		音楽教育 女	9 (3)	5 (2)					14 (5)	1				1	1	3 ( )	17 (5)	1						1	3			1		4					22	
		美術教育 男							0 ( )							0 ( )	0 ( )																	1	1	
		美術教育 女	2	1 (1)					3 (1)							0 ( )	3 (1)	1		3			1	5								1		2	11	
		保健体育科教育 男	4 (2)	1					5 (2)	1						1 ( )	6 (2)	1						1	1					1				1	9	
		保健体育科教育 女	2						2 ( )							0 ( )	2 ( )																		2	
		情報・技術教育 男				1 (1)			1 (1)	1 (1)						1 (1)	2 (2)								2					2				1	5	
		情報・技術教育 女		1 (1)					1 (1)							0 ( )	1 (1)																		1	
		ライフプランニング教育 男		1					1 ( )	2 (2)						2 (2)	3 (2)			2			1	3											6	
		ライフプランニング教育 女	5 (3)	2 (1)					7 (4)	1				1		2 ( )	9 (4)			1			1	2											11	
		英語教育 男		1 (1)					1 (1)							0 ( )	1 (1)								1	2				3					4	
		英語教育 女				1 (1)			1 (1)	3	1					4 ( )	5 (1)																		5	
		国際理解教育 男							0 ( )	1 (1)						1 (1)	1 (1)																	1	2	
		国際理解教育 女	2 (1)	1					3 (1)							0 ( )	3 (1)			1				1				1		1					5	
		環境教育 男	1 (1)						1 (1)		1 (1)					1 (1)	2 (2)			1				1	1					1					4	
		環境教育 女				1 (1)			1 (1)	2 (1)						2 (1)	3 (2)																	1	4	
		特別支援学校教員養成課程 男	2 (1)			1			3 (1)							0 ( )	3 (1)								1	1				2			1		6	
		特別支援学校教員養成課程 女	1 (1)	1 (1)		5 (2)	3		10 (4)	1			2 (1)			3 (1)	13 (5)			2				2		1				1			1	1	18	
	教員養成課程計	男	15 (8)	24 (12)	2 ( )	2 (1)	0 ( )	0 ( )	43 (21)	12 (6)	8 (5)	0 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	20 (11)	63 (32)	3	0	5	0	0	0	2	10	10	7	3	0	1	21	0	0	2	7	103	
		女	34 (8)	21 (12)	0 ( )	9 (5)	4 (1)	0 ( )	68 (26)	14 (4)	3 ( )	0 ( )	2 (1)	2 ( )	1 ( )	22 (5)	90 (31)	3	0	14	1	0		4	22	4	4		3	0	11	0	2	1	4	130	
		計	49 (16)	45 (24)	2 ( )	11 (6)	4 (1)	0 ( )	111 (47)	26 (10)	11 (5)	0 ( )	2 (1)	2 ( )	1 ( )	42 (16)	153 (63)	6	0	19	1	0	0	6	32	14	11	3	3	1	32	0	2	3	11	233	
	生涯スポーツ課程 地域スポーツ	男	4 (3)	1 (1)					5 (4)	1		1				2 ( )	7 (4)	2		2				4	1					1			1		13	
		女	2 (2)						2 (2)	2 (1)						2 (1)	4 (3)	2		1				3								1			8	
	生涯スポーツ課程 野外教育	男	2 (1)						2 (1)	1						1 ( )	3 (1)	1		4			1	6											9	
		女							0 ( )							0 ( )	0 ( )			1				1											1	
	教育カウンセリング課程	男		1					1 ( )							0 ( )	1 ( )								2	2	2			6					7	
		女							0 ( )			1				1 ( )	1 ( )	1			1			1	3	6	2	2			10					14	
	非教員養成系計	男	6 (4)	2 (1)	0 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	8 (5)	2 ( )	0 ( )	1 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	3 ( )	11 (5)	3	0	6	0	0	0	1	10	3	2	2	0	0	7	0	0	1	0	29	
		女	2 (2)	0 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	2 (2)	2 (1)	0 ( )	1 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	3 (1)	5 (3)	3	0	2	1	0	0	1	7	6	2	2	0	0	10	0	1	0	0	23	
		計	8 (6)	2 (1)	0 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	10 (7)	4 (1)	0 ( )	2 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	6 (1)	16 (8)	6	0	8	1	0	0	2	17	9	4	4	0	0	17	0	1	1		52	
学部計		男	21 (12)	26 (13)	2 ( )	2 (1)	0 ( )	0 ( )	51 (26)	14 (6)	8 (5)	1 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	23 (11)	74 (37)	6		11	0	0	0	3	20	13	9	5	0	1	28	0	0	3	7	132	
		女	36 (10)	21 (12)	0 ( )	9 (5)	4 (1)	0 ( )	70 (28)	16 (5)	3 ( )	1 ( )	2 (1)	2 ( )	1 ( )	25 (6)	95 (34)	6		16	2	0		5	29	10	6	2	3	0	21	0	3	1	4	153	
		計	57 (22)	47 (25)	2 ( )	11 (6)	4 (1)	0 ( )	121 (54)	30 (11)	11 (5)	2 ( )	2 (1)	2 ( )	1 ( )	48 (17)	169 (71)	12		27	2	0		8	49	23	15	7	3	1	49	0	3	4	11	285	
教育学研究科		男	1	6 (4)	1 (1)				8 (5)	1		1				2 ( )	10 (5)	1		2			3	1	7		1	1			2	2		1	2	24 ①	
		女	2 (2)	1					3 (2)							0 ( )	3 (2)		1	2	1		1	2	7							2	1	2	15 ⑤	
		計	3 (2)	7 (4)	1 (1)	0 ( )	0 ( )	0 ( )	11 (7)	1 ( )	0 ( )	1 ( )	0 ( )	0 ( )	0 ( )	2 ( )	13 (7)	1	1	4	1	0	4	3	14	0	1	1	0	0	2	4	1	1	4	39 ⑥	
合計		男	22 (12)	32 (17)	3 (1)	2 (1)	0 ( )	0 ( )	59 (31)	15 (6)	8 (5)	2 ( )	( )	0 ( )	0 ( )	25 (11)	84 (42)	7		13	0	0	3	4	27	13	10	6	0	1	30	2	0	4	9	156 ①	
		女	38 (12)	22 (12)	0 ( )	9 (5)	4 (1)	0 ( )	73 (30)	16 (5)	3 ( )	1 ( )	2 (1)	2 ( )	1 ( )	25 (6)	98 (36)	6	1	18	3	0	1	7	36	10	6	2	3	0	21	2	4	1	6	168 ⑤	
		計	60 (24)	54 (29)	3 (1)	11 (6)	4 (1)	0 ( )	132 (61)	31 (11)	11 (5)	3 ( )	2 (1)	2 ( )	1 ( )	50 (17)	182 (78)	13	1	31	3	0	4	11	63	23	16	8	3	1	51	4	4	5	15	324 ⑥	

（注）（　）は臨採で内数、○は外国人留学生で内数

就職率（学部）（進学者を除く）	92.37%
教員就職率（学部）（進学者を除く）	71.61%
教員養成課程卒業者に対する教員就職率	65.67%

信州大学教育学部同窓会

第二十八回通常総会（通知）

日　時
平成27年8月11日(火)
午前10時より

会　場
長野市岡田町
「ホテル信濃路」

次　第
1．開会宣言
2．会長挨拶
3．議長団選任
4．議事録署名人の選任並びに書記の任命
5．議事
　第一号議案　平成26年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について
　第二号議案　平成27年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
　第三号議案　第15期役員の改選について
6．来賓紹介、代表挨拶
7．閉会宣言

記念講演会：12時より
講師：滝澤 忠男 氏

祝賀懇親会：13時より

記念講演のご案内（一般公開）

『同窓会をよりよい血液活動に』

元長野市教育長　滝澤　忠男　氏

教育学部の同窓会総会は、本年で二十八回を迎える。二十八年前を顧みて、先輩諸氏の献身的なご努力に改めて、深い敬意と感謝を申し上げます。

地に一粒のタネを蒔き育てることは至難の業である。古くから、ことがなるためには、天の時、地の利、人の和が合致して成立すると言われています。初代会長松橋英幸先生を中心に同窓会を立ちあげていただいた方の思いを今振りかえり、さらなる発展につなげたいと思います。松橋会長も会報に書かれていますが、利害得失を超えた心のふるさとへの回帰がその根であると書かれています。

加えて、私は、その活動が人間の体の血液活動と似ていると考えます。会が人間ならばその活動エネルギーは、全身に運ばれます。その血液には、酸素と栄養素（それは会の願い、具体的な目標等）であると考えます。その活動の結果、動脈から静脈の活動へ移ります。静脈は、活動の結果、反省点、問題点をうみ出して参ります。それを肺臓が、また新しい血液として体全体へ送り出していくということの繰り返しとなります。

この約三十年間の歩みを今ふりかえり、当初願っていた同窓会活動として実現したもの、課題として残されたものを明らかにするのが直面の活動と考えます。大きな願いのひとつであった大学院設置は大きな成果であったと考えます。さらなる内容の充実を願ってやみません。

同窓会は、あくまでも荷車に例えるならば後押し団体で、カジ棒は、あくまでも、学生諸氏や教育学部自身であることの自覚は、改めて申し上げるまでもないことです。その連携の手は、信州大学としての連携で、県民から愛され求められる大学として、さらに磨きをかけたいものです。

そのためにも、ひとりでも多くの会員の参加を期待し、脚下照顧、足もとの素朴なお考えを語りあう同窓会になることを念じています。

記念講演終了後、「ホテル信濃路」において祝賀懇親会（会費四、〇〇〇円）を開催します。

こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。

事務局便り

○訃報

第七期同窓会長で、現在顧問の中田育成先生が、平成二十七年六月十五日ご逝去されました。謹んでおくやみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

○同窓会ホームページを装い新たに開設

事業の紹介や同窓会報のバックナンバー等を閲覧することができます。信州大学教育学部 同窓会 で検索、または、以下のURLをご指定ください。
http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/

○研究補助受付中

研究補助申請を四月より受け付けております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の六ページ・同窓会情報の欄をご参照ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されております。

○住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届を事務局宛てにお願い致します。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返ししますが、振り込み手数料等がかかりますので全額返金はできません。

事務局連絡先
電　話　026-238-4370
月・水・金　9:30 ~ 16:30
HP http://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-alumni/
Email　kdousou@shinshu-u.ac.jp